

○第十一類 鳥獸蠶種茶業取締

○北海道三重縣宮崎縣御料地ハ掛官吏ノ銃獵ヲ許ス二十三年八月農商務省訓令第四十三號  
北海道廳管下御料局札幌支廳三重縣下同度會事務所宮崎縣下同諸縣事  
務所々轄御料地内ニ限リ宮内省掛官吏ニ鑑札ヲ渡世キ巡視ノ際猛獸ノ  
害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ九月一日ヨリ右銃獵ヲ差許セリ  
但鑑札離形ハ本年三月本省訓令第十九號ノ通り

○第十二類 商事

○商法施行條例

明治二十三年八月  
法律第五十九號

朕商法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキニトシ命ス

商法施行條例

第一條 商法第二十六條第二十九條及ヒ第二百十條ニ定メタル一地域トハ各市町村ノ一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フ

一地域内ニ二箇以上ノ區裁判所アルトキハ其内一箇所ヲ以テ登記簿ヲ取扱フ所トス其裁判所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第二條 會社ニ非ヌシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス又從來之ヲ用ユル者ハ商法實施ノ日ヨリ三箇月内ニ之ヲ改ム可

前項ノ規定ニ違フ者ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第三條 商法第百五十九條、第百六十六條、第百六十八條、第二百二十二條ノ規定ニ依リテ官廳ニ差出ス書類及ヒ展閱ニ供スル書類ハ公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスルコトヲ得

公證人謄本認證ノ依頼ヲ受ケタルトキハ一件ニ付キ金拾錢ノ手数料若シ認證ト共ニ謄寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ公證人規則第六十五條ノ謄本手数料ヲ受クルコトヲ得

第四條 商法第二百二十二條ニ依リ諸書類ノ展閱ヲ求ムル者アルトキハ其請求者ヨリ一人ニ付一日五十錢以下ノ手数料ヲ受クルコトヲ得

第五條 本條例發布前ヨリ既ニ設立シタル各會社ハ商法實施ノ日ヨリ六箇月内ニ商法第七十八條、第三百二十八條、第百六十八條ニ準シテ登記ヲ受ク可シ之ヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ過料ニ處シ且地方裁判所ノ

命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ期限内ニ登記ヲ受ケサル既設會社ハ其期限經過ノ時ヨリ第三者ニ對シテ會社タル効ヲ失フ

第七條 商法第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第八條 既設會社ハ從來ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但商法第百十三條及ヒ第百三十九條第二項ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ三箇月ノ後既設會社ノ商號ニモ之ヲ適用ス

既設會社ノ商號ニハ其會社ノ種類ニ從ヒ合名會社合資會社又ハ株式會社ノ文字ヲ附ス可シ

第九條 既設合名會社ハ其社員ノ數商法第七十四條ノ定員ニ超ニルモ其現社員ノ數ニ依ルコトヲ得但定員以下ニ減シタル場合ニ於テハ更ニ増員シテ其定員ニ超ニルコトヲ得ス

第十條 既設株式會社ハ商法第百五十六條ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

既設株式會社ハ商法實施ノ日ヨリ六箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ定款ヲ主務省ニ差出シ其定款ノ認可ヲ受ク可シ但其定款ニ法律命令ニ反スル事ヲ掲ケタルモノハ之ヲ改正スルニ非サレハ認可スルノ限ニアラス  
從來官許ヲ得テ設立シタル株式會社ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但聞置又ハ人民ノ相對ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノハ此限ニ在ラス  
本條第二項ニ依リ認可ヲ受ク可キ株式會社ニ在テハ第五條ノ登記期限ハ其認可ヲ得タル日ヨリ起算ス  
右ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其認可ハ効力ヲ失フ

第十一條 既設株式會社ハ其株券ノ金額商法第七十五條ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十二條 既設株式會社ハ其定款ニ於テ第一回ノ株金拂込ヲ四分之一以下ニ定メタルトキハ商法第六十七條第二項ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ

依ルコトヲ得

第十三條 既設株式會社ノ創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承認ヲ經タルモノハ第五條ノ登記ヲ受ケサル前ニ於テモ商法第七十一條ノ規定ニ拘ハラス會社ニ於テ之ヲ負擔ス

第十四條 既設株式會社ノ既ニ發行シタル株券ハ商法第七十六條ニ反スルモノ有ルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第十五條 既設株式會社ニ於テ株金全額ノ拂込前ニ發行シタル株券ハ其全額拂込ニ至ルマテハ之ヲ假株券ト看做ス

第十六條 既設株式會社ノ株券ニシテ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ既ニ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノニ付テハ商法第八十條ノ規定ヲ適用セス

第十七條 既設株式會社ノ株式ノ讓渡人ニ付テハ商法第八十二條ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ二箇年間之ヲ適用セス

第十八條 既設株式會社ニ於テ既ニ其定款ヲ以テ株主ノ議決權ニ制限ヲ立テタルモノハ商法第二百四條ノ規定ニ反スルモ其定款ニ從フコトヲ得

第十九條 商法第七十七條第一項ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第二十條 商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條、第三百十一條、第二百二十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條竝ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出スヲ通例トス但當事者缺席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條竝ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス

第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス

第二十五條 前條ニ掲ケタルモノ、外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二項、第四項ヲ除ク外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス可キ手形ニハ捺印スルコトヲ要セス

第二十七條 商法第七百九十條ニ掲ケタル裁判所役員ハ執達吏トス

第二十八條 商法第八百二十五條ニ掲ケタル十五噸以上ノ船舶中ニハ日本

形船舶百五十石以上ノモノヲ包含ス

第二十九條 商法實施前ヨリ既ニ航海ノ用ニ供スル船舶ハ商法實施ノ日ヨリ一箇年内ニ商法第八百二十五條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 商法第四百九十三條及ヒ第五百十七條ニ國內水上ト稱スルハ川

湖港灣ヲ謂フ

第三十一條 遞信大臣ハ其地ノ形狀ト危險ノ程度トニ應シテ適宜ニ港灣ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 商法第八百六十七條及ヒ第九百六十六條ニ沿岸航海ト稱スルハ專ラ本邦海岸ニ沿フテ航行シ外國ニ至ラサルモノヲ謂フ但本邦ノ版圖ニ屬スル諸島地トノ航行ハ亦沿岸航海ニ屬ス

第三十三條 商法第九百三十六條ニ掲ケタル沿岸小航海ノ區域ハ從來ノ慣習ト海上危險ノ程度トヲ酌量シテ遞信大臣之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 商法第八百三十六條及ヒ第九百三十四條ニ官ト稱スルハ内國

ニ於テハ區裁判所外國ニ於テハ日本領事若シ領事ナキトキハ其地ノ官廳トス

第三十五條 司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應

ジテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條 破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十七條 破産管財人ノ任期ハ三箇年トス但再任セラル、コトヲ得

第三十八條 名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十九條 破産管財人ハ其職務ニ著手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條 破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期充ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條 破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可カラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ司法大臣ニ上申ス可シ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス  
第四十二條 職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ破産裁判所ノ公廷ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡ス可シ

第四十三條 管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其步割ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ

第四十四條 第三十六條及ヒ第三十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第百七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條 商法第千二條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ勾留若クハ監守セシトスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ其勾留ニ係ル者ハ之ヲ所

屬留置場ニ送致セシメ監守ニ係ル者ハ債務者ノ住所ヲ管轄スル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム

第四十六條 警察官廳ニ於テ債權者ノ申立ニ因リ債務者ヲ勾留若クハ監守セシトスルトキハ命令書ヲ發シテ之ヲ所屬留置場ニ送致セシメ又ハ監守ノ處分ヲ爲サシム此場合ニ於テハ警察官廳ハ同時ニ事由ヲ具シテ其旨ヲ管轄地方裁判所ニ通知ス可シ

第四十七條 司獄官吏債務者ヲ受取リタルトキハ刑事被告人ヲ受取リタル手續ニ準シ之ヲ留置場ニ入ル可シ其他債務者ノ取扱ハ總テ刑事被告人ニ異ナルコト無シ

拘留中債務者ノ食料其他ノ費用ハ商法第千三十二條ニ從ヒ破産財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂ヒ不足アルトキハ留置場之ヲ負擔ス前條ノ場合ニ於テ債務者破産ニ至ラサルトキハ其申立人之ヲ支辨ス但申立人ハ申立ノ際右ノ費用ニ當ル金額ヲ豫納ス可シ

第四十八條 監守ヲ爲ストキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ就キ其逃走若クハ財産ノ隠匿ヲ豫防シ且其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム

第四十九條 商法第千三條第二項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作リタル引致狀ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行ハ刑事訴訟法ニ定メタル勾引狀執行ノ手續ニ準ス

第五十條 商法第千四條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノ、外第百五十四條、第三百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所トス

第五十二條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ニ依リ管轄廳ノ免許ヲ得

質屋取締條例  
ノ正編第十四  
類ニ載メテ

タル質屋營業人ニハ商法第一編第七章第九節ノ規定ヲ適用セス  
第五十三條 明治六年第二百十五號布告代人規則ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

代人規則ハ正  
編第十五類ニ  
載メ

明治十年第六十六號布告利息制限法第三條及ヒ第五條ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス  
明治十五年第五十七號布告爲替手形約束手形條例ハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

利息制限法ハ  
正編第十五類  
ニ載メ

○商法二百六條ニ依リ債券發行方明治二十三年八月法律第六十號  
朕商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商法第二百六條ニ依リ株式會社債券ヲ發行スルハ總株金半額以上ノ拂込アリタル後ニ於テスヘシ



第二條 債券ノ發行額ハ株金ノ拂込金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 債券ヲ發行セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 債券ハ一通毎ニ其債務金額、利子ノ歩合及任拂時期、發行ノ年月日、番號、商號、社印、取締役ノ氏名、印、債權者ノ氏名ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ營業所

二 株金總額及株金拂込額

三 債券償還ノ初期及最終期

四 會社開業ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期

六 認許ヲ受ケタル事

第五條 株式會社ハ債券ヲ發行スルトキハ債券原簿ヲ備ヘ債券一通毎

ニ區分シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債權者ノ氏名住所

二 債權ノ金額番號

三 利子ノ歩合

四 債券發行ノ年月日及讓渡ノ年月日

五 債券償還ノ初期及最終期

第六條 債券ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ債券及債券原簿ニ記載スルニアラサレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第七條 株式會社ハ營業時間中債券原簿ノ展閱ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ於テハ請求人ニ對シテ二拾錢以内ノ手数料ヲ求ムルコトヲ得

第八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五拾圓以下ノ過料ニ處セラル

一 債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 債券原簿ヲ備ヘヌ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

○商事非訟事件印紙法 明治二十三年八月 法律第六十六號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙

ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告又ハ假差押ノ申立
- 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
- 三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告ニ對スル答辯
- 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セザル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル財務竝ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除スヘキ者トス

財團ノ價格五圓マテ 四十錢  
 同 十圓マテ 六十錢  
 同 二十圓マテ 一圓二十錢  
 同 五十圓マテ 三圓  
 同 七十五圓マテ 四圓四十錢  
 同 百圓マテ 六圓  
 同 二百五十圓マテ 十三圓  
 同 五百圓マテ 二十圓  
 同 七百五十圓マテ 二十六圓  
 同 千圓マテ 三十圓  
 同 二千五百圓マテ 四十圓  
 同 五千圓マテ 五十圓  
 同 五千圓以上八千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

民事訴訟法ハ  
正編第十五類  
ニ載ス

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置終局計算ニ至リ配當金額高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同  
一ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

○沖繩縣商法施行延期 明治二十三年十月 法律第百三號  
 朕沖繩縣ニ商法施行延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第三十二號商法ハ沖繩縣ニ於テハ當分ノ内之ヲ施行セス

○商業會議所條例 明治二十三年九月 法律第八十一號  
朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ商法第四條ニ掲ケタル商取引ノ各部類ニ屬スル商人及作業人ヲ謂フ  
第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ

要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ  
第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト
- 二 商業ニ關スル法律規則ノ制定改正廢止及施行方法其他商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ官廳ニ開申スルコト
- 三 商業ノ實況及其統計ヲ官廳ニ報告スルコト
- 四 商業ニ關スル事項ニ付官廳ノ諮問ニ應答スルコト
- 五 法律命令若クハ官ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所仲立人組合及商業

ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト

六 仲立人ノ資格員數及手數料ヲ審査スルコト

七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第五條 會議所設立地ノ商業者ニシテ所得稅ヲ納ムル者ハ會員ノ選舉權ヲ有ス

第六條 會議所設立地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者ニシテ年齡三十歲以上ノ男子及商事會社ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス

商事會社ヲ代表スヘキ者ハ法律上其會社ノ代理權ヲ有スル者一員ニ限ル

第七條 第五條及第六條ノ規定中會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ省令ヲ以テ特ニ其所得稅ノ等級ヲ定メ又ハ他ノ國稅ヲ加フルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 瘋癲白癡ノ者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 會員選舉規則

二 議事規則

- 三 庶務規程
  - 四 役員職務權限
  - 五 仲裁規則
  - 六 會計規則
  - 七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則
- 第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

○商業會議所條例施行規則 二十三年九月 農商務省令第十二號  
 商業會議所條例施行規則左ノ通相定ム

- 商業會議所條例施行規則
- 第一條 商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選舉規則及ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ
    - 一 會議所ノ名稱
    - 二 設立地ノ區域
    - 三 設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者及被選舉權ヲ有スル者ノ概數
    - 四 會員ノ定數
  - 第二條 設立認可ヲ得タルトキハ發起人ハ於テ其旨公告シ商業會議所條例第五條及ヒ第六條ニ依リ會員選舉人及被選舉人ノ名簿ヲ六十日以内ニ調製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選舉ノ施行ヲ求ムヘシ
  - 但設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ
  - 第三條 會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲナシタルトキハ郡長若クハ市長ハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲナシ其選舉ヲ施行セムヘシ
  - 第四條 第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ノ定數會員選舉規則及第二條ニ依リ調製シタル會員選舉人及被選舉人名簿ハ會議所定款

認可ノ日マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條 會識所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選舉人及被選舉人名簿ヲ編製スルトキ其ノ納税額並年齢ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ

第六條 會識所ノ定款ハ會員選舉ノ後六十日以内ニ議定シテ認可ヲ受クヘシ

○商業會議所條例中東京市ニ於ケル所得税ノ等級ヲ定ム 二十三年十月農商務省令第十七號

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得税ノ等級ヲ明治二十年三月勅令第五號所得税法第四條ノ第四等以上トス

○

○日本銀行條例 明治十五年六月第三十二號布告

日本銀行條例左ノ通制定ス

二十三年法律第六十一號ヲ以テ本條例中再出追加ニ付

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ

義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方

ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「ユルレスボンデンス」ヲ締約スル

コトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「ユルレスボンデンス」ヲ

締約スルモ其事由ヨ「大藏卿」ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又「大藏卿」ニ

於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコ

トアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決

議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓

トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得



第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アルトキハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スコシ

- 第一 資本金ノ損失ヲ補フ
- 第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利息ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件ヤハ勿論

其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル

事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ

所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシム

ヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行

セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合

ニ於テハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス

此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ヶ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任

期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會

ニ於テ之ヲ選舉ス(二十三年法律第六十一號ヲ以テ本項改正次項以下各項  
ニ於テ之ヲ選舉ス(追加此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトトス)

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス(二十三年法律第六十一號  
ヲ以テ本項改正次項以下

各項追加此法律ハ商法實施ノ  
日ヨリ施行スヘキコトトス)

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集  
ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 「大藏卿」ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ「大藏卿」ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三個月以前ニ之ヲ布告スヘシ



○銀行條例 明治二十三年八月 法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキニトヲ命ス

## 銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用井ルニ拘ラズ總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

資本金總額ノ拂込ヲ了ラサル銀行ニ於テハ一人又ハ一會社ニ對シ其拂込

高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

○貯蓄銀行條例 明治二十三年八月 法律第七十三號

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス  
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス  
但其責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本金ノ半額ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲ケル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一 貸付

第二 證券ノ割引

第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債證券地方債證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力

ニ付疑フヘキ理由ノ存セサル者二名以上ノ裏書アル爲替手形約束手形ニ限ルヘシ

貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期賣買ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

二十三年農商  
務省令第十號  
附以テ本細則  
中改正加除ニ  
付提出

○特許條例施行細則 農商務省令第一號  
特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如ク  
(別冊)

特許條例施行細則

第一條 特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 發明ノ名稱
- 二 發明ノ目的及性質ノ要領
- 三 圖面アルトキハ其略解
- 四 發明ノ詳細説明
- 五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別
- 六 特許請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラセムルニ必要ナル發明ノ部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ

第四條 特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ

特許條例施行細則

差出レ置キ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

第五條 特許條例第八條ニ依リ改其發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條 特許條例第二十六條ニ依リ特許證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書若シハ圖面ヲ添ヘ現特許證竝ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依リ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第七條 特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第八條 願書ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サハルトキハ出願ヲ無効トス

第九條 特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ願號ヲ附シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ願號ヲ記入スヘシ

第十條 特許願書ニ願號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査官ニ配付スヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ)

審査ハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定メ置キ願書ノ願號ニ從ヒ之ニ着手スヘキモノトス(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ本項中改正)

第十一條 左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先テ處分ニ着手スヘキモノトス

- 一 特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書
- 二 同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書
- 三 此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條 審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ改正)

第十三條 審査官ニ於テ發明ノ離形若クハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ

適當ノ雛形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條 出願人共出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ雛形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り共改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第十五條 特許條例第十三條ノ抵觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部撞着スルトキニ限り生スルモノトス

- 一 二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ抵觸スルトキ
- 二 特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

四 改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ抵觸スルトキ

第十六條 抵觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其抵觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

第十七條 特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面雛形又ハ見本等ニ作リタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス

第十八條 前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第十九條 關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ニ其實事ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ差出サシムヘシ

第二十條 關係人始末書又ハ答辯書ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 審査官ニ於テ始末書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ處アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第二十二條 前二條ニ依リ始末書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第二十三條 發明ノ抵觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又



ハ特許證若クハ改訂願書ノ取消又ハ其發明ノ抵觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其抵觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ抵觸シタル特許願書又ハ特許證若クハ改訂願書ニ對シテ再ヒ抵觸ノ審査ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條 審判ハ書類及口頭ノ二種トシテ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

口頭審判ハ關係人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認めタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ關)

第二十六條 審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

第二十七條 審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ關)

特許局長ハ云々ノ十四字ヲ削ル  
對手人答辯書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認めタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

爲スヘシ

第二十八條 審判請求書又ハ答辯書ヲ差出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第二十九條 審判請求書又ハ答辯書ヲ差出シタル者其請求書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ差出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認めタルモノノ外其請求ヲ許サス

第三十條 審判請求書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ處アリト認めタルトキハ審判長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第三十一條 審判請求書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第三十二條 審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書竝ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第三十三條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス

第三十四條 審判ヲ終結セタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第三十五條 審判ヲ請求セタル者其請求ヲ取消サント欲スルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第三十六條 審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス

第三十七條 特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十日トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三十八條 特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出ササルトキハ出願ヲ無効トス(二十三年農商務省令第五號ヲ以テ)

第三十九條 出願人特許料ヲ納付セタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ特許原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許書ヲ送付スヘシ

第四十條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル

能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サシムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ

其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登録ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第四十一條 特許證ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂特許證ハ第十號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ爲ストアル)

特許條例第二十五條ノ場合ニ於テ特許證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由竝ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ)

第四十二條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト述名ニテ特許證ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與讓與共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十一號及第十二號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ)

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定

書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ  
 第四十四條 特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人住所氏名明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノヨリ記載シテ捺印スヘシ  
 審判請求書始末書及牒觸又ハ審判ニ關スル答辯書及訂正書ニハ對手人ノ住所氏名ヲ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應ジ副本ヲ添フヘシ  
 第四十五條 前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ挿入又ハ削除シ若シハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方廳ヲ經由セズ直ニ特許局ニ差出スヘシ  
 第四十六條 特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス  
 第四十七條 特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シタルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ  
 第四十八條 出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ  
 代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ  
 第四十九條 特許局ニ差出シタル書類又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキ

ハ特許局長ハ其受取方ニ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サハルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス  
 特許局ニ差出シタル書類又ハ見本ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ責ニ任セス(二十年農商務省令第一九號ヲ以テ本項追加)  
 第五十條 已ヲ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ離形ヲ差出シ又ハ出願シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得  
 前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ  
 第五十一條 特許證主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ離形又ハ見本ヲ差出スヘシ  
 第五十二條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及特許ノ年限ヲ標記スヘシ  
 第五十三條 特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許證主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ  
 第五十四條 特許ヲ與ヘタルトキ特許證ノ改訂又ハ明細書ノ削除ヲ許可シタルトキ特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告ス

（書式及製圖例略ス）二十三年農商務省令第十號

二十三年農商務省令第八號  
ヲ以テ本細則  
中改正加除ニ  
付再出

○意匠條例施行細則二十二年一月二號  
農商務省令第二號  
意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

（別冊）

意匠條例施行細則

第一條 意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通テ添フヘシ

- 一 意匠ノ名稱
- 二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱
- 三 意匠ノ詳細説明
- 四 專用權請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分

ヲ示スヘシ  
寫眞ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條 意匠登録願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條 意匠登録願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若シハ圖面二通ヲ添へ現意匠登録證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第十條及第十一條ノ手續ニ依リ改訂意匠登録證ヲ送付スヘシ

第七條 審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サズルトキハ出願ヲ無効トス（二十三年農商務省令第八號ヲ以テ改正）

第八條 出願人共出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過認アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スル

意匠條例施行細則

コトヲ得但査定書若シハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモ  
 ノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス  
 第九條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス  
 第十條 意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添  
 ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ  
 出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第  
 十九條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通圖面二  
 通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出  
 サ、ルトキハ出願ヲ無効トス  
 第十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ  
 以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録  
 證ヲ送付スヘシ  
 第十二條 意匠登録證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ  
 以テ其日附ト爲シ改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ依リ調製シ許可  
 日ヲ以テ其日附ト爲ス(二十三年農商務省令第八號ヲ以テ爲ス)  
 意匠條例第十五條ノ場合ニ於テ意匠登録證ヲ下付スルトキハ特許局  
 長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ(二十三年農商務  
 省令第八號ヲ以テ爲ス)  
 第十三條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録證ヲ受ケン

ト欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ  
 第十四條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與讓與共有又ハ書入ノ登録ヲ請  
 求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十  
 八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出  
 ス(二十三年農商務省令第八號及第十一號ヲ以テ爲ス)  
 前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定  
 書ニ登録済ノ印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ  
 第十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル  
 物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及専用ノ年限  
 ヲ標記スヘシ  
 第十六條 意匠専用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シ  
 タルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ  
 第十七條 意匠ノ登録又ハ意匠登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意  
 匠ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テ  
 ハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ  
 第十八條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 第一類 衣服  
 衣裳外套襯衣帶領飾領卷肩掛等  
 第二類 頭飾服飾帽子

- 櫛簪、根掛等○胸飾、腕環、指環、鈕釦等○各種ノ帽子
- 第三類 時計及其附屬品
- 袂時計、置時計、掛時計、鎖下ケ物等
- 第四類 傘、杖及履物類
- 各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等
- 第五類 携帶品
- 烟具、扇、懷中物、手提等
- 第六類 家具
- 柳、單筥、机、椅子、卓子、寢臺等
- 第七類 敷物
- 段通、油團、花越、其他各種ノ敷物
- 第八類 煖爐及其附屬品
- 火鉢、煖爐、煙草盆、炭取、石炭入、火箸等
- 第九類 照燈器
- 行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等
- 第十類 建築附屬品
- 障、戸、扉、柵、欄、間、欄干等
- 第十一類 織物及他類ニ屬セサル織物製品
- 網、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、蔥掛、卓被等

- 第十二類 他類ニ屬セサル編物組物
- レース、打紐飾線等
- 第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス)
- 飲食器、手箱、香合等
- 第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉化石、瓦等モ之ニ屬ス)
- 飲食器、花瓶、香爐等
- 第十五類 他類ニ屬セサル玻璃
- 飲食器、紋樣玻璃等
- 第十六類 他類ニ屬セサル七寶
- 花瓶、香爐、手箱、香合等
- 第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品
- 貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品
- 第十八類 他類ニ屬セサル石材製品
- 寶石、其他石類ノ各種製品
- 第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品
- 盆箱、花臺、籃籠、籠、柱、聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等
- 第二十類 紙及他類ニ屬セサル紙製品
- 紋紙、擬草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箋等○書簡筒、文匣、一閑張等
- 第二十一類 皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋章○文匣馬具等

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十九條 特許條例施行細則第十三條第四十四條第四十五條第四十六

條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條及第五十一條ハ此細則

ニモ之ヲ適用ス(二十三年農商務省令第八號ヲ以テ細則ノ下第三十條ノ下及第五十一條ノ下及ノ字ヲ削除シ第五十條ノ下及第五十一條ノ下及ノ字ヲ加フ)

(舊式並製圖例略スヲ以テ舊式中削除追加ス)

○商標條例施行細則二十二年一月農商務省令第三號

商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年六月太政官第十

三號布達商標登錄願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス

(別冊)

商標條例施行細則

第一條 商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ

從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼

用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本二箇ヲ掲ケ左ノ諸件

ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ

二十三年農  
務省令第九號  
ヲ以テ本細則  
中改正加除ニ  
付再出

一 商標全部構造ノ詳細説明

二 商標ノ要部

三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四 商標使用ノ方法

第三條 商標登錄願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ

差出スヘシ

第四條 商標登錄願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出

願人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ

順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條 商標條例第十六條ニ依リ商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其

事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若シハ見本二箇ヲ添ヘ現商

標登錄證並ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手

續ニ依リ改訂商標登錄證ヲ送付スヘシ

第六條 審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スル

トキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以

内ニ訂正書訂正見本又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ

ハルトキハ出願ヲ無効トス(二十三年農商務省令第九號ヲ以テ改正)

第七條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發

見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若シハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第八條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス  
第九條 商標ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添

ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ  
出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録證ヲ送付スヘシ

第十一條 商標登録證ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂商標登録證ハ第七號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(二十三年農商務令第九號ヲ以テ爲サトス) 商標條例第十五條ノ場合ニ於テ商標登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由竝ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ(二十三年農商務令第九號)

第十二條ノ下又ハ(二十三年農商務令第九號)

第十二條 商標條例第十二條ニ依リ賣與讓與又ハ共有ノ登録ヲ請求スルトキハ第八號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(二十三年農務令第九號) 前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ  
第十三條 商標專用權ヲ相續セタルトキ又ハ登録商標主氏名ヲ變換シ若シハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十四條 商標ノ登録又ハ商標登録證ノ改訂ヲ許可セタルトキ又ハ商標ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報竝ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條 特許局ニ差出シタル商標ノ印版不用ニ屬セタルトキハ特許局長ハ其請取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ請取方ヲ爲サ、ルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

特許局ニ差出シタル商標ノ印版ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ責任セズ(二十二年農務令第九號) 本項追加



第十六條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一類 化學品及藥劑  
酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、護膜膠、磷、石鹼、酒精、グリセリン、ヤナエン、モルヒネ、丁酸劑、舍利別煎劑、丸藥膏、藥油、辟香、丁子、食鹽、石灰、艾等
- 第二類 染料及顏料  
藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、靛青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等
- 第三類 塗料  
漆、假漆、油漆、油、漆、油、靴墨等
- 第四類 香料及燻料  
香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、煉香等
- 第五類 金屬及其半加工品  
銻、鍍、鍍、鋼、鍍、條、鍍、鐵、葉、鐵、板、鐵、線、銅、銅、板、銅、線、鉛、鉛、板、亞、鉛、亞、鉛、板、錫、合、金、等
- 第六類 金屬ノ製品  
鑄物、打物、彫鏤品及編物等
- 第七類 利器及尖刃器  
鐵錐、鐵錐、針、針、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、蔗嘴等
- 第八類 貴金屬及其製品  
アルミニウム、金、ニッケル、銀ノ製品モ之ニ屬ス

- 黃金、銀、四分一、紫銅、其他貴金屬ノ合金、鍍品、彫鏤品、モール等
- 第九類 珠玉及其彫鏤品  
珊瑚珠、真珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其模造品
- 第十類 礦物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)
- 第十一類 石材及其製品、並彫鏤品  
版石、大理石、砥石、石器等及模造品
- 第十二類 漆喰類  
漆喰、セメント、石膏等
- 第十三類 陶磁器類  
諸種ノ陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等
- 第十四類 七寶燒
- 第十五類 玻璃及其製品  
玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等
- 第十六類 機械類  
紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製造機械、汽機、汽罐等
- 第十七類 農工器具  
犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘、拔、鐵、錘、繩、墨等
- 第十八類 學術上ノ器械  
理化學、醫術及測量等ノ器械

- 第十九類 度量權衡
- 第二十類 運送用ノ車類  
荷車、馬車、人力車、自轉車等
- 第二十一類 樂器  
琴、三味線、胡弓、笛等
- 第二十二類 時計及其附屬品
- 第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、煙火等
- 第二十四類 蠶種、紙繭
- 第二十五類 真綿及木棉綿
- 第二十六類 生絲、絹絲及天蠶絲、琴絲、金絲、銀絲、毛之ニ屬ス
- 第二十七類 綿絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 網、綿麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五類 絲類ノ編物及組物

- レース、打紐、綳等
- 第三十六類 被服  
諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等
- 第三十七類 釀造物及飲料  
諸種ノ酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等
- 第三十八類 砂糖類  
諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第三十九類 菓子及麵包類  
干菓子、蒸菓子、掛シ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等
- 第四十類 茶及咖啡類
- 第四十一類 烟草類
- 第四十二類 穀菜種子及菓物類  
五穀、蔬菜、草、菓實種子、根、球、麩種、モヤシ等
- 第四十三類 挽粉、澱粉及其製品  
諸種ノ挽粉、澱粉、麵類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
- 第四十四類 味噌、醬物及漬物類
- 第四十五類 貯藏食品  
鹽節、錫乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等
- 第四十六類 牛乳製品

- 凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 第四十七類 煙具及袋物
- 諸種ノ煙管、煙袋、煙管筒、懷中物等
- 第四十八類 紙及其製品
- 諸種ノ紙、色紙、短冊、摺草紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等
- 第四十九類 筆、墨類
- 筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等
- 第五十類 皮革及其製品
- 馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓、弦等
- 第五十一類 燃料類
- 諸種ノ炭、附水、摺附水、燈心等
- 第五十二類 油、蠟類
- 諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等
- 第五十三類 肥料
- 干鰯、餅粕、油粕、骨粉等
- 第五十四類 木竹材
- 第五十五類 木、竹、藤製品及其漆塗、蒔繪品類
- 指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等
- 第五十六類 角、甲、牙類ノ製品

- 第五十七類 藁及草ノ製品
- 壘表、筵、編笠、繩、麥藁細工等
- 第五十八類 傘、杖及履物
- 諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等
- 第五十九類 扇子及團扇
- 第六十類 提燈及ランプ類
- 第六十一類 齒磨及洗粉
- 第六十二類 刷子及髭類
- 第六十三類 玩具類
- 花簪、鞠、莖、將、莖、人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等
- 第六十四類 錦繪及寫真類
- 第六十五類 書籍、新聞紙、雜誌類
- 第六十六類 他類ニ屬セサル商品
- 第十七條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス
- (書式略ス、二十三年農商務省令第九號)

○第十三類 刑罰、治罪、裁判

○刑法中官廳官署官吏及官ノ印文書免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署公吏  
竝公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス 明治二十三年十月  
法律第百號

朕公署、公吏竝公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス  
刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ  
適用シ官ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札  
ニ適用ス

○竊盜罪處罰方 明治二十三年十月  
法律第九十九號

刑法中官廳官署官吏及官ノ印文書免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署公吏竝公  
署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス 竊盜罪處罰方

朕竊盜ノ罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野山林川澤池沼湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條 前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

○商法ニ關スル破産者有罪破産區別 明治二十三年十月 法律第一百號

朕商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス
- 二 過怠破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則 明治二十三年九月 法律第八十五號

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰

金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○軍港要港規則違反者處分 明治二十三年九月  
法律第八十三號

朕軍港要港規則違反者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○省令廳令府縣令及警察令ニ罰則ヲ附ス 明治二十三年九月  
勅令第二百八號

朕省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ勾留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

○刑事訴訟法 明治二十三年十月  
法律第九十六號

沿革略記

明治二年九月彈正臺彈例ヲ定ム○同年十一月刑部省ニ於テ  
逃部司定則及規則ヲ定ム○三年五月彈正臺彈例ヲ更定ス○  
同年同月獄廷規則ヲ定ム○同年九月府縣ニ令シテ流以下ノ罪犯ヲ  
專斷スルヲ許シ死刑ノミ刑部省ニ伺出サシム○四年四月從來刑部  
省彈正臺ニ於テ取扱掛ノ事務一切司法省ニ引受取計フヘキ旨ヲ達  
ス○六年二月司法省第二十二號ヲ以テ裁判所斷獄則例ヲ編成シ之

ヲ布達ス○六年六月司法省達ヲ以テ假ニ檢事職制ヲ定ム○七年一月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程司法警察規則ヲ定ム○同年十月第三十二號達ヲ以テ司法警察事務ヲ當分使府縣へ委任ス○八年五月達ヲ以テ檢事職制章程ヲ更定ス○同年同月第九十一號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程ヲ定ム○同年同月第九十三號布告ヲ以テ刑事上告手續ヲ定ム○同年六月第三號布告ヲ以テ裁判事務心得ヲ定ム○九年四月第三十九號達ヲ以テ七年第十四號達司法警察規則ヲ廢ス○同年同月司法省第四十七號達ヲ以テ糾問判事職務假規則ヲ定ム○同年同月司法省第四十八號達ヲ以テ司法警察假規則ヲ設ク○十年二月第十七號布告ヲ以テ保釋條例ヲ定ム○同年同月第十九號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程及控訴上告手續ヲ改正ス○十三年七月第三十七號布告ヲ以テ治罪法ヲ制定シ尋テ十四年七月第三十六號布告ヲ以テ十五年一月一日ヨリ施行ノ期日トス○二十三年十月法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法ヲ制定シ二十三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

朕刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（刑事訴訟法畧之）

正編第十三類  
ニ關スル  
法律ハ本  
施行ノ後  
テ廢止ニ  
屬ス

○辯護士ノ事務ハ當分代言人ニ取扱ハシム二十三年十月司法省訓令第四號  
訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ置カルヘキニ付當分ノ内代言人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席檢事ハ此旨管内代言人へ通達スヘシ

○間接國稅犯則者處分法明治二十三年九月法律第八十六號  
朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得  
犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スル

間接國稅犯則者處分法

トキハ間税官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間税官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間税官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間税官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間税官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間税官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間税官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間税官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 間税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要

トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間税官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ間税署若ハ間税分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間税署若ハ間税分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間税官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間税官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ  
調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ



- 一 本人ノ氏名年齢身分職業住所
- 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所
- 三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
- 四 差押ヘタル證據物件及種類數量竝ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品竝ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ勾留ニ該ルモノト認ルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ  
犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

- 一 犯則者逃走シ恐マルトキ

二 證憑埋滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ検査若ハ徵收ニ従事スル官吏ヲ謂フ

第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受  
タルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東

京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス

○間接國稅犯則者處分ニ關シ書類送達方明治二十三年十月勅令第二百三十二號

朕間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 間接國稅犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間稅署若ハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

○ 刑事ノ控訴及上告ニ由リ被告人ニ屬スル費用支辨方二十三年十月內務省令第五號重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人勾禁中ノ費用竝ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス  
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送

官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○ 裁判所位置及管轄區域 明治二十三年八月 法律第六十二號

沿革略記

明治四年十二月布告ヲ以テ司法省內ニ始テ別局ヲ設ケ當分東京裁判所ト稱ス○五年八月達ヲ以テ神奈川外二縣へ裁判所ヲ置ク○同年同月達ヲ以テ足柄外七縣へ裁判所ヲ置ク○同年九月達ヲ以テ兵庫縣へ裁判所ヲ置ク○同年十月達ヲ以テ京都府へ裁判所ヲ置ク○同年同月達ヲ以テ大阪府へ裁判所ヲ置ク○六年六月司法省第九十八號達ヲ以テ靜岡外五縣へ裁判所ヲ置ク○六年六月司法省第九十八號達ヲ以テ宇都宮裁判所ヲ栃木裁判所ニ合併シ印旛木更津兩裁判所ヲ合シテ千葉縣ニ移シ入間群馬兩裁判所ヲ合シテ熊谷縣ニ移ス○七年一月達ヲ以テ開拓使管下渡島函館へ裁判所ヲ置ク○同年同月達ヲ以テ長崎縣へ裁判所ヲ置ク○同年四月達ヲ以テ佐賀縣へ裁判所ヲ置ク○同年十二月達ヲ以テ新潟福島兩縣へ裁判所ヲ置ク○八年五月達ヲ以テ新治裁判所ヲ廢ス○同年同月第九十二號布告ヲ

裁判所位置及管轄區域













廣	濱	掛	甲	府	甲	長
松遠江	川遊江	掛	府	府	府	野
山名郡 御厨村 西淺羽村 奥山郡 奥山村	山名町 田原村 福島村 西貝村 於保村 豐濱村	佐野郡 城東郡 森町 久努西村 犬居村 飯田村 宇刈村 山梨村 久努村 笠西村 幸浦村 上淺羽村 東淺羽村	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	南巨摩郡 西八代郡 北都留郡	上水内郡 上高井郡 更級郡 中津村 信和村 共和村 青木島村 埴科郡	飯山信濃 下水内郡 下高井郡 東筑摩郡 南安曇郡 西筑摩郡 榑川村

野

飯	松	上	大	飯	伊	上	岩
飯山信濃	松本信濃	上諏訪信濃	大町信濃	飯田信濃	伊那信濃	上田信濃	岩田信濃
森村 倉科村 雨宮縣村 清野村 松代町 西條村	東筑摩郡 南安曇郡 西筑摩郡 榑川村	諏訪郡	北安曇郡	西筑摩郡 奈川村 日護村 福島村 新開村 開田村	下伊那郡 山口村 駒ヶ根村 大桑村 讀書村 吾妻村	上伊那郡 神坂村 王瀧村 田立村	小縣郡 埴科郡 南條郡 中之條村 坂城村 戸倉村 五加村 埴生村 更級郡 屋代町 八幡村 桑原村 稻荷山町

裁判所位置及管轄區域

院													
相川	糸魚川	高田	六日町	柏崎	長岡	村上	新發田	岩船	古志				
佐渡	越後	越後	越後	越後	越後	越後	越後	越後	越後				
京都市	西頸城郡	中頸城郡	南魚沼郡	刈羽郡	尼小下大關飯片三古 瀨島桐都原塚貝島志 町谷原村村村村村村 村村村村村村村村村 出村五吉宮深浦 雲田千川本澤村 崎村石村村村村 町村村村村村村	北魚沼郡	北蒲原郡	東蒲原郡	越前 中蒲原郡 三島郡 間瀨村	越前 中蒲原郡 三島郡 須田村 新飯田村			
愛宕郡	東頸城郡	東頸城郡	中魚沼郡	刈羽郡	出雲崎町	協野町	高梨村	島崎村	八北本上日塚 手西與岩井村村 村村村村村村村	來迎寺村	塚山村	岩田村	野寺桐善天王岩 積泊原高津寺田 村村村村村村村
葛野郡	羽茂郡												

新瀨	
三條	新瀨
越後	越後
松野尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野小 小中川 小中川 熊木村 熊森村 南蒲原郡 南蒲原郡 西蒲原郡 内	新瀨市 中蒲原郡 松島村 會野木村 水戸村 江口村 太川村 村松村 林結村 川樂村 淨吉村 小海村 澤原村 西蒲原郡 五十嵐 下坂弁 味方村
瀨田村 馬堀村 五之納村 和根村 曾根村 竹野村 升野村 小吉村 小高村 横田村 内	嘉瀬村 二本村 白根村 大郷村 横水村 吉澤村 五箇村 七谷村 山通村 頭田村 大瀨村 内
松長村 彌針村 三田村 吉田村 佐渡村 仁ヶ山 國上村 秋津村 三津村 小方村 池崎村	金巻村 黒鳥村 新津村 木代村 矢野村 白井村 新保村 三野村 大原村 橋田村 女池村 山舞村 和舞村
船越村 櫻井村 加奈居村 米津村 稻津村 打島村 川前村 地前堂 大關村	内野村 木場村 横越村 荻野村 菱島村 津島村 根岸村 十全村 菅名村 沼垂村 鳥屋王村 山岡村
福水岡村 太花野村 瀨道共石瀨木笈東 村村村村村村村村村村 村村村村村村村村村村	板井村 鳥原村 小賀村 阿賀村 新梅村 庄關村 五泉村 川東村 早通村 茅城島村 袋津村
岩室村 矢中島曲卷赤河栗燕 村村村村村村村村村村 村村村村村村村村村村	七穂村 上坂弁 小須津 新鹿日 小滿驚 須津鹿日 須津鹿日 須津鹿日 須津鹿日 須津鹿日 須津鹿日 須津鹿日

奈		大坂									
高田	松山	奈	富田	岸和田	堺		天王寺	牧	茨木		
大和	大和	大和	林河内	和泉	河内	和泉	河内	方河内	木		
高市郡	宇陀郡	添上郡	石川郡	和泉郡	八上郡	堺市	丹北郡	茨田郡	垂津		
葛上郡		添下郡	志紀郡	泉郡	天美村	大島郡	長吉村	交野郡	島上郡		
葛下郡		山邊郡	道明寺村	日根郡	布忍村		瓜破村	繼良郡	島下郡		
忍海郡		平洋郡	小山村		松原村		矢田村				
廣瀬郡		式上郡			三宅村		志紀村				
		式下郡			惠我村						

大京										
池田	大坂	舞鶴	福知山	嵯峨	宮	園	水津	伏見	京	
攝津	攝津	丹後	丹後	丹波	丹波	丹波	相樂郡	宇治郡	山城	宇治郡
豐島郡	大坂市	加佐郡	加佐郡	天田郡	中郡	與謝郡	南桑田郡	乙訓郡	久世郡	綴喜郡
能勢郡	西成郡	有路下村	河守上村	何鹿郡	竹野郡	熊野郡	北桑田郡	宇治村		
		岡田中村	河守下村							
		岡田下村	有路上村							
		東雲村	河西村							
		丸八江村								
		池内村								
		朝來村								

岡山									
水	大	勝	津	笠	五	新	高	片	
口近江甲賀郡	津近江滋賀郡	山美作真島郡	山美作英田郡	岡備中小田郡	島備中淺口郡	見備中	梁備中	上備前	備中
	栗太郡 野洲郡	大庭郡	西北條郡 東南條郡 西夕條郡 東北條郡 勝北郡 吉野郡	後月郡	窪屋郡 下道郡	新見村 美敷村 草間村 豐永村 熊谷村 刑部村	上房郡 阿賀郡 中井村 賀陽郡 日美村 川上郡	和氣郡 磐梨郡	庭瀬村 眞金村 高松村 生石村 服部村 阿曾村

坂														
神														
戸														
岡	村	豐	龍	社	姫	洲	柏	筱	明	伊	攝	五		
山	岡	岡	野	播	路	本	原	山	石	丹	津	條	大	宇
加陽郡内	備前	但馬	播磨	加東郡	神西郡	津名郡	水上市郡	多紀郡	明石郡	川邊郡	神戶市	大和	宇智郡	吉野郡
	御野郡 上道郡 津高郡 兒島郡 赤坂郡	七美郡 二方郡	揖東郡 揖西郡 赤穂郡	加西郡 多可郡	印南郡 加古郡 飾東郡 飾西郡 神東郡	三原郡			美濃郡		八部郡 菟原郡 武庫郡 有馬郡			



新

和歌山				
新宮紀伊	御坊紀伊	田邊紀伊	妙寺紀伊	和歌山紀伊
東牟婁郡ノ内 新宮町 勝浦村 上太田村 三尾川村 玉置口村 北山本村 三川村 四本宮村 請川村 小口村	日高郡ノ内 御坊村 西内原村 野口村 川中村 三尾村 中山路村 下山路村 龍神村 藤田村 印南村 比井崎村 上山路村	日高郡ノ内 南都村 東牟婁郡ノ内 大島村 上南部村 高城村 清川村	伊都郡ノ内 那賀郡ノ内 粉河村 池田村 長田村 龍門村 狩宿村 麻生津村 上名手村 川原村	岩出村 東貴志村 田中村 上神野村 細野村 有田郡 中野上村 下神野村 狹淵村 南野上村 猿川村 長谷尾原村 眞國村 志賀野村 上岩出村 中貴志村 西貴志村 南野上村 東野上村 北野上村 小倉村 初月村 安樂川村 奥安樂川村 山崎村 小川村

裁判所位置及管轄區域

徳島										
高知										
徳島	撫	高	川	脇	高	安	須	中	松	大
徳島市	板野郡	那賀郡	美馬郡	阿波郡	高知市	安藝郡	香美郡	幡多郡	山形郡	洲伊豫
名東郡	勝浦郡	名西郡	三好郡	阿波郡	土佐郡	長岡郡	吾川郡	伊豫郡	和氣郡	上浮穴郡
									久米郡	西宇和郡ノ内
									温泉郡	平野村
									伊豫郡	西宇和郡ノ内
									和氣郡	八幡濱町千丈村
									上浮穴郡	神山村
									下浮穴郡	雙岩村
										三瓶村
										三島村

名 古 屋						
新	豐	西	岡	半	津	一ノ宮
城三河	橋三河	尾三河	崎三河	田尾張	島尾張	宮尾張
八名郡、内 富岡村 日吉村 長部村 加茂村 金澤村 西郷村	八名郡、内 嵩山村 玉川村 三上村 下條村 牛川村 美米村	幡豆郡、内 福釜村 志貴村 高柳村 小川村 赤松村 北大濱村 高濱村 根崎村 和泉村 大濱町 西端村 城ヶ入村 高取村 三ッ川村	額田郡、内 西加茂郡 東加茂郡 中島郡 占部村 矢作村 一ッ木村 下重原村 竹重村 平貴村 若園村 堤村 境村 逢見村 知立町 小垣江村 壽慈野村 安城村 牛橋村 壽橋村 竹場村 里重村 志賀村 野田村 和會村 今村 元谷村 榎塚村 中郷村	知多郡	海東郡 海西郡	中島郡 丹羽郡 葉栗郡

裁判所位置及管轄區域

院						
高	松	宇和島	今	西	山	松
松	松	伊豫	伊豫	伊豫	八幡	松
三本松 磯岐 大内郡 寒川郡、内 阿野郡、内 津田村 長尾村 松尾村 寒川郡、内 高松市 三木郡 香川郡 山田郡 小豆郡	丸 磯岐 阿野郡、内 坂出町 加茂村 金山村 西庄村 林田村 松山村 王越村	觀音寺 磯岐 豐田郡 三野郡	宇和島 伊豫 東宇和郡 南宇和郡 北宇和郡	今 治 伊豫 越智郡 野間郡	西 條 伊豫 宇麻郡 新居郡 周布郡 桑村郡	山 八幡 濱 伊豫 二木生村 真穴村 川上村 舌田村 矢野崎村 喜須來村 日土村 川ノ石村 宮内村 磯津村 伊方村 町見村 三机村 四ッ濱村 神松名村 三崎村

院 訴 控									
安濃津伊勢	松 阪伊勢	四日市伊勢	上野伊賀	山田伊勢	志摩	水本紀伊	岐 阜	八幡美濃	大垣美濃
飯高郡 飯野郡	多氣郡 飯高郡 飯野郡	三重郡 朝明郡 桑名郡 員辨郡	阿拜郡 山田郡 名張郡 伊賀郡	伊勢 度會郡 三瀨谷村 荻原村 領内村 大杉谷村	志摩 答志郡 英虞郡	北牟婁郡 北牟婁郡	岐阜市 厚見郡 各務郡 方縣郡 武儀郡 羽栗郡 中島郡	郡上郡	海西郡 下石津郡 多摩郡 上石津郡 不破郡 安八郡
山吉田村 高岡村 大野村 乘本村	飯高郡 飯野郡	川添村 相可村 東黒部村 下御絲村 大淀村 上御絲村 明星村 齋宮村 五ヶ谷村	川添村 相可村 西外城田村 佐奈村 津田村 丹生村	山田郡 名張郡 伊賀郡	英虞郡	北牟婁郡	各務郡 方縣郡 武儀郡 羽栗郡 中島郡		

廣 島					
御 嵩美濃	高 山飛騨	廣 島安藝	吳 安藝	竹 原安藝	三 次
加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡	大野郡 吉城郡 益田郡	安藝郡 和庄村 莊山田村 大屋村 宮原村 燒山村 吉浦村	安藝郡 和庄村 莊山田村 大屋村 宮原村 燒山村 吉浦村	竹原郡 賀永村 東野村 下野村 莊野村 三津村	備後 高野山村 口北村 口南村
加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡	大野郡 吉城郡 益田郡	安藝郡 和庄村 莊山田村 大屋村 宮原村 燒山村 吉浦村	安藝郡 和庄村 莊山田村 大屋村 宮原村 燒山村 吉浦村	竹原郡 賀永村 東野村 下野村 莊野村 三津村	備後 高野山村 口北村 口南村

裁判所位置及管轄區域



島					
庄	尾	福	山	德	岩
原備後	道備後	山備後	山口	山周防	國周防
三上郡 奴可郡 山内東村 山内西村 山内北村 比和村	御調郡 世羅郡 山内東村 山内西村 山内北村 比和村	深津郡 安那郡 山手村 郷分村 神島村 草戸村 沼隈郡 内 百島村 山波村 高須村 柳津村 藤江村 本郷村	吉敷郡 佐波郡 甲奴郡 藍田郡 品治郡	都濃郡 八代村 熊毛郡 内 玖珂郡 内 小瀬川村 麻里布村 深須村 米川村 玖珂村 藤河村 愛宕村 本郷村 秋中村 高森村 横山村 北河内村 藤谷村 高根村 桑根村 由宇村 南河内村 師木野村	通津村 賀見畑村 桑根村 祖生村 川下村 瀬前村 廣瀬村 由宇村 南河内村 師木野村

山					
柳井津周防	萩	赤間關長門	船	水	今市
柳井津周防	長門	長門	水長門	水次	出雲
大島郡 内 伊保庄村 伊保庄南村 室津村 上ノ関村 佐賀村 大野村 平保庄村 曾根村 岩里府村 麻里府村 田布施村 鹽田村 浅江村 三輪村 岩里府村 東荷村 三丘村 高水村 勝間村 三井村 周防村 柳井津町 古開作村 玖珂郡 内 新庄村 日積村 鳴門村 柳井村 柳井津町 古開作村 神代村 余田村 伊陸村	阿武郡 見島郡 大津郡	赤間關市 豐浦郡 内 岡枝村 豐東郷村 内日村 小月村 清未村 豐東前村 長府村 豐西上村 豐東下村 小串下村 豐西中村 豐西上村 角島村 神田下村 阿川村 粟野村 宇賀村 神玉村 豐田上村 豐田中村 豐田奥村 豐田下村 豐田前村 彦島村	厚狹郡 豐浦郡 内 豐浦郡 内	水次 大原郡 仁多郡 飯石郡	出雲 神門郡 出雲郡 楯縫郡

裁判所位置及管轄區域

長											院				
長											松				
崎											江				
武生	平	島	大	長	灣	米	倉	鳥	西	益	大	濱	石見		
水登岐	戸肥前	原肥前	村肥前	崎肥前	口伯耆	子伯耆	吉伯耆	取因幡	鄉隱岐	田石見	森石見	田石見	石見		
登岐郡	北松浦郡	南高來郡	北高來郡	長崎市長崎市	日野郡	汗入郡	河村郡	鳥取市	周吉郡	美濃郡	邇摩郡	那賀郡	安濃郡		
石田郡			東彼杵郡	西彼杵郡		會見郡	久米郡	智頭郡	隱地郡	鹿足郡	邑智郡				
							八橋郡	高草郡	知夫郡						
								氣多郡	海士郡						
								岩井郡							
								八上郡							
								八東郡							

長											院				
長											松				
崎											江				
柳	久留米	飯塚	甘水	福岡	伊萬里	唐津	武雄	佐賀	嚴原	福江					
河筑後	米筑後	塚筑前	水筑前	岡筑前	里肥前	津肥前	雄肥前	賀肥前	原對馬	肥前南松浦郡					
山門郡	久留米市	穂波郡	上座郡	福岡市	西松浦郡	東松浦郡	杵島郡	佐賀市	上縣郡						
三瀬郡	三瀬郡	嘉麻郡	下座郡	早良郡			藤津郡	基肄郡	下縣郡						
大溝村	安武村	嘉麻郡	夜須郡	早良郡				基肄郡	佐賀郡						
江上村	西牟田村	鞍手郡		柏屋郡				基肄郡	神崎郡						
城島村	大善寺村	竹野郡		怡土郡				基肄郡	小城郡						
青木村	鳥飼村	御原郡		那珂郡				基肄郡	三根郡						
木室村	荒木村	生葉郡		宗像郡				基肄郡	養父郡						
木佐木村	三瀬村							基肄郡							
	犬塚村							基肄郡							

裁判所位置及管轄區域

大分			
玉津	中津	杵築	豊後
西國東郡内 玉津村 西國東郡内 上真玉村 立石村 東國東郡内 伊美村	下毛郡内 宇佐郡内 天津郡内 麻生村 高家村 南院村	西國東郡内 速見郡内 初日村 大山村 東國東郡内 富來村 武藏村 南安岐村	西國東郡内 速見郡内 初日村 大山村 東國東郡内 富來村 武藏村 南安岐村
伊美村 上伊美村 竹田津村 熊毛村 來浦村 姬島村	明治村 龍土村 津房村 佐田村 和間村	奈持江村 大内村 朝來村 西原村 安岐村	菅尾村 牧口村 上井田村 土師村 中井田村 井田村 長谷村 柴原村

裁判所位置及管轄區域

崎					
佐伯	白杵	大分	行	小	
佐伯郡内 大野郡内 小野市村 重岡村	北海郡内 佐賀郡内 上津留村 下浦村 大野郡内 川登村	北海郡内 大野郡内 犬飼郡内 大分郡内 速見郡内 濱脇村	田川郡 築城郡 京都郡 上毛郡 仲津郡	豊前 企救郡 筑前 遠賀郡	三叉村 大川村 川口村 田口村 久間田村 濱武村



城		宮							
郡		福島	氣仙沼	登米	登石	古川	大河原	仙臺	高千穂
山		岩代	沼津	米陸前	卷陸前	川陸前	磐城	陸前	日向
田村郡ノ内	安積郡ノ内 郡山町 富久山村 小原田村 山野井村 大槻村 喜久田村 丸守村 三和村 多田野村 河内村 永盛村	信夫郡 伊達郡 安達郡	本吉郡ノ内 氣仙沼町 御嶽村 階上村 松岩村 唐桑村 新折村 大島村 本吉村 入谷村 小泉村	登米郡 本吉郡ノ内 麻崎村 横山村	牡鹿郡 本吉郡ノ内 十三濱村 桃生郡	志田郡 加美郡 玉造郡 栗原郡 遠田郡	磐城伊具郡 亘理郡 刈田郡	陸前柴田郡 仙臺市 宮城郡 名取郡 黒川郡	高千穂日向 西白杵郡

裁判所位置及管轄區域

院										
宮					鹿兒島					
延岡	都	伊	宮	大	水	鹿	加	知		
日向	日向	日向	日向	島	引	屋	治	覽		
日向 東白杵郡	北諸縣郡 西諸縣郡	肥前那珂郡	宮崎郡 北那珂郡 東諸縣郡 兒湯郡	大隅 大島郡	高城郡 薩摩郡 南伊佐郡 出水郡 甌島郡	日向 南諸縣郡	大隅 東諸縣郡ノ内 肝屬郡 市成村 岩川村	薩摩 北伊佐郡	大隅 東諸縣郡ノ内 財部村 末吉村	阿多郡 川邊郡 給黎郡 額娃郡 揖宿郡
										大隅 北伊佐郡 熊毛郡 取護郡

盛岡		山形									
遠野	花卷	盛岡	鶴岡			酒田		長井	米澤		
陸中	陸中	陸中	羽前			羽前		羽後	羽前		
西閉伊郡 中閉伊郡 小國村	稗貫郡 東和賀郡 西和賀郡	盛岡市 南岩手郡 北岩手郡 紫波郡	加茂村 田川村 鶴岡町 西田川郡 大寶寺村 福榮村 大山町 西郷村 稻生村	狩川村 長沼村 黒川村 大泉村 東田川郡 本郷村 山添村 渡前村 手向村 立谷村	八榮島村 藤島村 十六合村 東榮村 五里村 榮村	大和村 京田村 温海村 念珠關村 東郷村 大泉村	西田川郡 大寶寺村 福榮村 大山町 西郷村 稻生村	東田川郡 新堀村 西田川郡 廣野村 余目村	飽海郡	西置賜郡	伊佐澤村 小松村 赤湯村 犬川村 中郡村 吉島村

福島										
米澤	新庄	山形	田島	若松	平	白河	中村	磐城		
澤	羽前	形	岩代	松	勢	磐	岩	宇	磐	
東置賜郡 南置賜郡 高島村 二井宿村 屋代村 龜岡村 和田村 上郷村	最上郡	東置賜郡 南村山郡 東村山郡 北村山郡 西村山郡	南會津郡	安積郡 耶麻郡 大沼郡 河沼郡	北會津郡 耶麻郡 大沼郡 河沼郡	磐前郡 菊多郡 磐城郡 檜葉郡 標葉郡	西白河郡 東白川郡 石川郡	岩代郡	宇多郡 行方郡	磐城郡 三春町 御木澤村 高野村 逢隈村 巖江城村 中妻村

青		函	
森			
五所川原 陸奥南 畑岡村	藤ヶ澤 陸奥西 津輕郡	弘前 陸奥南 津輕郡	野邊地 陸奥北 津輕郡
中津輕郡内 新和村 南津輕郡内 畑岡村	西津輕郡 碓氷村 山形村 五郷村 黒石村 南津輕郡内 船津村 岩水村 清水村 中津輕郡内 弘前市 津輕郡内	弘前市 津輕郡内 和徳村 相馬村 高杉村 女鹿村 六郷村 猿賀村 竹館村 十二里村 尾崎村 尾崎村 常盤村 野澤村 光田村 金田村 大鰐村 浅瀬村 藏館村 石川村 大郷村 中郷村 大杉村	上北郡内 野邊地村 大深内村 下北郡 横濱村 六箇所村 甲地村 天間林村 七戸村 浦野館村
阿氣村	三重村	醍醐村	
湯澤 羽後	青森 陸奥東 津輕郡		

裁判所位置及管轄區域

秋											
田											
横手 羽後	大曲 羽後	花輪 陸奥中 鹿角郡	大館 羽後	能代 羽後	本庄 羽後	秋田 羽後	水澤 陸奥中 膽澤郡	勢井 陸奥中 西勢井郡	陸前 氣仙郡	宮古 陸奥中 南閉伊郡	陸奥 二戸郡
淺舞村 境町村 横手町 平鹿郡内	山内村 黒川村 福地村 里見村	仙北郡 平鹿郡内 角間川村 川西村	北秋田郡	山本郡	由利郡	秋田市 南秋田郡 河邊郡	江刺郡	西勢井郡 東勢井郡	川井村 門馬村	東閉伊郡 北閉伊郡	
田根森村 旭村 陸合村 吉田村 潮倉村	植田村 入澤水村 大森村										

院												
控						院						
八戸		函館		江刺		福山		壽都		札幌		
上北郡ノ内 三本木村 三石村 三澤村	法奥澤村 四和村 藤坂村 六戸村 下田村	渡島函館區 龜田郡 上磯郡 茅部郡	渡島檜山郡 爾志郡	後志久遠郡 大橋郡 瀬棚郡 奥尻郡	福山渡島松前郡	壽都島牧郡 歌棄郡 磯谷郡	札幌區 札幌郡 夕張郡 厚田郡 上川郡 樺戸郡 雨龍郡	石狩空知郡 夕張郡 厚田郡 濱益郡	札幌千歳郡 有珠郡 室蘭郡 幌別郡 勇拂郡 白老郡	日高幌泉郡 新冠郡 静内郡 三石郡 浦河郡 標似郡	天鹽上川郡 中川郡 天鹽郡 苦前郡 留萌郡 増毛郡	北見宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡

院											
控						院					
小樽		岩内		根室		厚岸		釧路		十勝	
小樽郡 古平郡	余市郡 美園郡 積丹郡 高島郡 忍路郡	岩内郡	根室根室郡 花咲郡 野付郡 標津郡 目梨郡	網走郡 常呂郡 紋別郡	千島國後郡 振別郡 擇捉郡 紗那郡 藥取郡 得撫郡	新知郡 占守郡 色丹郡	釧路白糠郡 釧路郡 川上郡 阿寒郡 足寄郡	釧路厚岸郡	常呂郡 十勝郡 中川郡 河西郡 河東郡	廣尾郡 常呂郡	上川郡

○地方裁判所支部及管轄表  
 明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第三十一條ニ依リ地方裁判所  
 支部及其管轄左表甲乙號ノ通相定メ甲號支部ニ於テハ重罪公判及民事  
 第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務乙號支部ニ於テハ豫  
 審ヲ要スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事  
 務ヲ取扱ハシム

裁判所位置及管轄區域



但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス  
甲號

支 部	管 轄 區 裁 判 所
八王子	八王子
八日市場	八日市場 佐原
水更津	水更津 北條
土 浦	土 浦 麻生 龍ヶ崎
下 妻	下 妻
栃 木	栃 木 佐野
熊 谷	熊 谷 大宮
高 崎	高 崎 富岡
濱 松	濱 松 掛川
松 本	松 本 上諏訪 大町 福島
飯 田	飯 田 伊奈

上 田	上 田 岩村田
新 瀨 田	新 瀨 田 村上
長 岡	長 岡 柏崎 六日町
高 田	高 田 糸魚川
相 川	相 川 相川
宮 津	宮 津 峯山 福知山 舞鶴
洲 本	洲 本 洲本
姫 路	姫 路 社 龍野
豐 岡	豐 岡 村岡
津 山	津 山 勝山
彦 根	彦 根 長濱
小 浜	小 浜 敦賀
七 尾	七 尾 高濱 輪島
田 邊	田 邊 御坊 新宮

裁判所位置及管轄區域

裁判所位置及管轄區域

久留米	小倉	中津	豆田	天草	大島	石卷	白河	平	若松	米澤	酒田	鶴岡	磐井
久留米	小倉	中津	豆田	天草	大島	石卷	白河	平	若松	米澤	酒田	鶴岡	磐井
福島	行郡	玉津				登米			田島	長井			水澤
柳河						氣仙沼							

脇町	中村	宇和島	岡崎	山田	高山	尾道	赤間關	濱田	西郷	米子	平戸	福江	殿原
脇町	中村	宇和島	岡崎	山田	高山	尾道	赤間關	濱田	西郷	米子	平戸	福江	殿原
川島			西尾	木本		福山	船木	大森		溝口	武生水		
			豊橋					益田					
			新城										

能代	宮古	古川	延岡	八代	唐津	島原	萩	岩國	三次	上野	四日市	丸龜
能代	宮古	古川	延岡	八代	唐津	島原	萩	岩國	三次	上野	四日市	丸龜
大館			高千穂	人吉	伊萬里			柳井津	庄原		龜山	觀音寺
花輪												

乙號

西條	高岡	小松	玉島	高梁	篠山	園部	谷村	沼津	支部	八戸	弘前	大曲
西條	高岡	小松	玉島	高梁	篠山	園部	谷村	沼津	管轄區裁判所	八戸	弘前	大曲
合治	杉木新	大聖寺	笠岡	新見	柏原			下田			鰺澤	横手
								吉原			五所川原	湯澤

○區裁判所出張所管轄區域表司法省令第四號  
區裁判所出張所管轄區域別冊ノ通改定ス但新世出張所開廳迄其管内登  
記事務ハ従前ノ管轄屬ニ於テ之ヲ取扱ハシム  
(別冊略之)

○在職ノ裁判官檢察官裁判所書記現職休職區分明治二十三年十月  
勅令第二百五十四號

朕裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ  
公布セシム

第一條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官及裁判所書記ハ同法ニ  
定メタル判事檢事及裁判所書記トス

第二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官ニシテ同法ニ依リ更ニ補職セ  
ラレサル者ハ休職トス

第三條 判事十五年以上奉職ノ者裁判所構成法實施後疾病其他ノ事故ニ因  
リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リ休職ヲ願出タルトキハ司法大臣ハ休職  
ヲ命スルコトヲ得但檢事ヨリ判事ニ轉任シタル者ハ檢事ノ勤務年數ヲ通  
算ス

第四條 休職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第五條 休職判事ノ俸給支給ノ方法ニ付テハ一般非職官吏ノ例ニ依ル

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判明治二十三年十月  
法律第百六號

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法  
處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ

得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ查定ニ關スル事件

○第十五類 訴訟、民事

○婚姻養子縁組及禁治産ニ關スル訴訟規則 明治二十三年十月法律第百四號

朕民事訴訟法ノ補則トシテ婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ノ訴訟手續

第一條 婚姻ノ無效、離婚又ハ同居ヲ目的トスル訴訟ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ニ專屬ス

縁組ノ無效又ハ離縁ヲ目的トスル訴訟ハ養子ヲ爲シタル者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ニ專屬ス

婚姻又ハ縁組ノ不成立ニ關スル訴訟ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地

婚姻養子縁組及禁治産ニ關スル訴訟規則

方裁判所ニ專屬ス

第二條 婚姻事件及ヒ縁組事件ニ付テハ檢事ハ口頭辯論ニ立會フノ外受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス審問ニモ亦立會フコトヲ得檢事ニハ職權ヲ以テ總テノ期日ヲ通知ス可シ

檢事ハ婚姻又ハ縁組ヲ維持スル爲メ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

調書ニハ檢事ノ氏名及ヒ其申立ヲ記載ス可シ

第三條 婚姻ノ不成立、無效、離婚及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合スルコトヲ得縁組ノ不成立、無效及ヒ離縁ノ訴モ亦同シ  
婿養子縁組ノ場合ニ於テハ婚姻ノ不成立、無效、離婚又ハ同居ノ訴ニ縁組ノ不成立、無效又ハ離縁ノ訴ヲ併合スルコトヲ得

本條ノ訴ニ他ノ訴ヲ併合シ及ヒ他ノ種類ノ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス但本條ノ訴ノ原因タル事實ヨリ生スル損害賠償及ヒ養料ノ請求ニ付テハ此

限ニ在ラス

第四條 判決ニ接署スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ訴ニ於テ提出シタル以外ノ理由ヲ主張スルコトヲ得

第五條 婚姻ノ無效若クハ離婚ノ訴又ハ縁組ノ無效若クハ離縁ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ前訴訟ニ於テ又ハ訴ノ併合ニ因リ主張スルヲ得ヘカリシ事實ヲ獨立ナル訴ノ理由トシテ主張スルコトヲ得ス被告ニ在テハ反訴ノ理由ト爲スヲ得ヘカリシ事實ニ付テモ亦同シ

第六條 民事訴訟法第百一十一條第二項第三項、第二百十條及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第七條 口頭辯論ノ期日ニ被告カ出頭セサルトキハ原告ノ申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ

被告ノ在廷セサル場合ニ於テ期日ヲ定メタルトキハ其都度被告ヲ呼出ス可シ

關席判決ハ本條ノ手續ノ效アラサルトキニ限り被告ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 裁判所ハ原告若クハ被告ノ自身出頭ヲ命シテ其原告若クハ被告又ハ其相手方若クハ檢事ノ主張シタル事實ニ付キ原告若クハ被告ヲ審訊スルコトヲ得

審訊ヲ受ク可キ原告若クハ被告カ受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ又ハ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ審訊ヲ爲スコトヲ得

出頭セサル原告若クハ被告ニ對シテハ審訊期日ニ出頭セサル證人ニ對スル規定ヲ適用ス

第九條 和諧ノ調フ可キ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ離婚又ハ離縁ノ訴ニ關スル手續ヲ長クトモ一箇年間中止スルコトヲ得

第十條 裁判所ハ婚姻又ハ離縁ヲ維持スル爲メ當事者ノ提出セサル事實ヲ

モ斟酌シ且職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得但裁判前ニ當事者ヲ審訊ス可シ

第十一條 婚姻及ヒ縁組ノ不成立若クハ無効又ハ離婚若クハ離縁ヲ言渡ス判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可シ

第十二條 婚姻事件及ヒ縁組事件ノ判決ニ付テハ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ス

第十三條 假處分ニ關シ殊ニ配偶者ノ一方又ハ養子カ住家ヲ去ルノ許可及ヒ養料ノ供給ヲ申立テタル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 婚姻及ヒ縁組ノ不成立若クハ無効又ハ離婚若クハ離縁ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第十五條 民法ノ規定ニ從ヒ檢事ノ職權ヲ以テ起スコトヲ得ヘキ無効ノ訴ニ付テハ以下數條ニ定メタル特別ノ規定ニ從フ

第十六條 檢事又ハ第三者ヨリ訴ヲ起ストキハ夫婦又ハ養親子ヲ以テ相手方ト爲ス

夫婦又ハ養親子ノ一方ヨリ訴ヲ起ストキハ他ノ一方ヲ以テ相手方ト爲ス  
第十七條 檢事ハ自ラ訴ヲ起サ、ルトキト雖モ訴訟ヲ進行シ殊ニ獨立シテ申立ヲ爲シ及ヒ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十八條 檢事上訴ヲ爲シタルトキハ上訴手續ニ於テ前審ノ當事者雙方ヲ相手方ト看做ス

檢事カ訴訟人タル場合ニ於テ當事者ノ一方カ上訴ヲ爲シタルトキハ上訴手續ニ於テ他ノ一方ト檢事トヲ相手方ト看做ス

第十九條 訴訟人タル檢事カ敗訴スル場合ニ於テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ニ從ヒ勝訴者タル相手方ニ生シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二章 禁治産事件ノ訴訟手續

第二十條 禁治産ノ申立ハ治産ヲ禁セラル可キ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十一條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其申立ニハ申立ノ理由タル事實及ヒ證據方法ノ表示ヲ包含ス可シ

第二十二條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ニ依リ職權ヲ以テ心神喪失ノ常況ニ在ルヤ否ヲ定ムル爲メニ必要ナル探知ヲ爲シ且適當トスル證據方法ヲ調フ可シ

裁判所ハ訴訟手續ヲ開始スルノ前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行スルコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 裁判所ハ公開セサル法廷ニ於テ一人又ハ數人ノ鑑定人ノ立會ヲ以テ治産ヲ禁セラル可キ者ヲ訊問ス可シ此訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ



爲サシムルコトヲ得

右訊問ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ實施シ難ク又ハ裁判ノ爲メニ必要ナラス又ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ健康ニ害アリトスルトキハ之ヲ爲サ、ルコトヲ得

第二十四條 禁治産ノ宣言ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

右宣言ハ豫メ治産ヲ禁セラル可キ者ノ心神喪失ノ常況ニ付キ一人又ハ數人ノ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 裁判所ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ身體ノ監護又ハ財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 訴訟手續ノ費用ハ治産ヲ禁シタル場合ニ於テハ禁治産者之ヲ負擔シ其他ノ場合ニ於テハ禁治産ノ申立ヲ爲シタル者之ヲ負擔ス可シ但檢事カ申立ヲ爲シタルトキハ國庫之ヲ負擔ス

第二十七條 禁治産ニ付キ爲シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ檢事ニ之

ヲ送達ス可シ

第二十八條 禁治産ヲ宣言スル決定ハ法律上ノ後見人アルトキハ其後見人ニ職權ヲ以テ之ヲ通知ス可シ

第二十九條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十條 禁治産ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一箇月ノ期間内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

訴ヲ起スノ權利ハ禁治産者、其後見人及ヒ民法ノ規定ニ從ヒ禁治産ノ申立ヲ爲スノ權ヲ有スル者ニ屬ス

右期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ヲ知リタル日ヲ以テ始マリ其他ノ者ニ對シテハ後見人ノ選定ヲ以テ始マリ又法律上ノ後見ノ場合ニ於テハ其決定ヲ法律上ノ後見人ニ通知スルヲ以テ始マル

第三十一條 訴ハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス  
第三十二條 禁治産者ニ對シテ不服ヲ申立ル訴ニハ他ノ訴ヲ併合スルコト  
ヲ得ス

反訴ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第三十三條 禁治産者カ訴ヲ起サントスルトキハ其申立ニ因リ受訴裁判所  
ノ裁判長ハ訴訟代理人トシテ辯護士ヲ之ニ附添ハシム可シ

第三十四條 第六條及ヒ第七條ノ規定ハ本章ニモ之ヲ準用ス

第三十五條 第二十三條及ヒ第二十四條第二項ノ規定ハ不服申立ノ訴ニ付  
テノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ區裁判所ニ於テ爲シタル鑑定ヲ十分ナリト認ムルトキハ鑑定人  
ノ訊問ヲ爲サ、ルコトヲ得

第三十六條 不服申立ノ訴ヲ理由アリトスルトキハ禁治産ヲ宣言シタル決  
定ヲ取消ス可シ

然レトモ此取消ノ判決ハ後見人ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボ  
サス

第三十七條 不服申立ノ訴ニ關スル訴訟費用ニ付テハ第二十六條ノ規定ヲ  
準用ス

第三十八條 受訴裁判所ハ禁治産事件ニ付キ爲シタル總テノ終局判決ヲ區  
裁判所ニ通知ス可シ

第三十九條 禁治産ノ解止ニ付テハ第二十五條ヲ除クノ外本章ノ規定ヲ準  
用ス

第四十條 準禁治産事件ニ付テハ左ノ特別ナル規則ヲ除クノ外本章ノ規定  
ヲ準用ス

第二十二條第二項ハ浪費者ニ之ヲ適用セス  
又同條第三項第二十五條、第三十三條及ヒ檢事ニ關スル規定ハ總テノ準  
禁治産者ニ之ヲ適用セス

准禁治産ヲ解止スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○家資分散法明治二十三年八月  
法律第六十九號

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

家資分散法

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スコシ  
右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セシテ之ヲ爲スコトヲ得  
此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ  
家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第千五十五條以下ヲ準用ス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ従前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ効力ヲ有ス

○財産委棄法明治二十三年十月  
法律第九十四號

朕財産委棄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日

ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

### 財産委棄法

第一條 無資力ナル債務者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ差押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマテハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對シ自己ノ財産ノ委棄ヲ其住所地ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債務者ハ總債權者ノ氏名及ヒ分限ト各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トヲ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財産ノ委棄ハ協諧契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財産ノ委棄ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

此他財産ノ委棄ニ付テハ家資分散ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

○

○陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法 明治二十三年八月法律第六十七號

朕陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

### 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法

第一條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ兵營艦船若クハ軍專用廳舎ニ於テ行フ場合ヲ除ク外軍法會議ノ囑託ニ因リ通常裁判所之ヲ行フ

第二條 軍法會議ハ軍法會議私訴裁判ノ強制執行ニ關シテハ職權ニ因リ若クハ原告人又ハ被告人ノ申立ニ因リ補充及取消ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第三條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ判決言渡書ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス前項言渡書ノ正本ハ原告人ノ請求ニ因リ軍法會議之ヲ付與ス

第四條 軍法會議ハ必要ト認ムル場合ニ於テ假執行假差押假處分ノ命令ヲ爲ス

假執行ヲ命シタルトキハ其旨ヲ言渡書ノ正本ニ附記ス

本條ノ場合ニ於テハ保證又ハ供託ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 第一條ニ依リ通常裁判所ニ於テ強制執行ヲ爲ストキハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

○民事訴訟費用法 明治二十三年八月 法律第六十四號

沿革畧記 明治五年九月司法省第十四號布達ヲ以テ訴訟入費償却假規則ヲ定メ從來ノ訴訟入費原被共自費或ハ町村費ヲ以テ充用シ來ルヲ向後一切曲者ノ負擔ニ歸セシム○同年同月同省無號達ヲ以テ右施行日限ヲ定ム○同年同月同省第十七號布達ヲ以テ訴訟入

正編第十五類  
訴訟入費償却  
規則ハ本法發  
止ニ依リ廢止

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手數料及ヒ立替金ハ執達吏手數料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルト

キハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合

合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合

ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範

圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日

金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢

トス

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及

ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手數料規則ニ定メタ

ルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

○民事訴訟用印紙法 明治二十三年八月 法律第六十五號

沿革略記

明治八年十二月第九十六號布告ヲ以テ訴訟用野紙規則ヲ制定ス○十七年二月第五號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ民事訴訟

用印紙規則ヲ制定ス○二十三年八月法律第六十五號ヲ以テ民事訴訟

用印紙法ヲ制定ス

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス

正印紙第十五類  
民事訴訟用印紙  
規則ハ本法  
止

可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ

區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢

同 十圓マテ 三十錢

同 二十圓マテ 六十錢

同 五十圓マテ 一圓五十錢

同 七十五圓マテ 二圓二十錢

同 百圓マテ 三圓

同 二百五十圓マテ 六圓五十錢

同 五百圓マテ 十圓

同 七百五十圓マテ 十三圓

民事訴訟用印紙法

同 千圓マテ 十五圓

同 二千五百圓マテ 二十圓

同 五千圓マテ 二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ

加貼ス可シ

第六條 左ニ掲グル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラントヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當



ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以

明治十七年  
四月號布達ハ正  
統第十五號ニ  
載ス

下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

○非訟事件手續法 明治二十三年十月  
法律第九十五號

朕非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

非訟事件手續法

第一章 認可及ヒ許可ノ申請手續

第一條 民法ノ規定ニ從ヒ區裁判所ノ認可又ハ許可ヲ求ムル申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申請ニ付テハ裁判所ハ事情ニ從ヒ利害關係人ノ出頭又ハ當事者ノ自身出頭ヲ命シ公開セサル法廷ニ於テ審訊スルコトヲ得

第三條 申請ニ付テノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二章 失踪事件ニ關スル請求手續

第四條 失踪ノ推定、宣言又ハ財産占有有其他ノ請求ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

請求ニハ其理由トスル事實ヲ表示シ且證據書類アルトキハ之ヲ添付ス可シ

第五條 前條各種ノ請求ハ之ヲ併合スルコトヲ得

第六條 失踪ノ推定又ハ宣言ノ請求ニ付テハ前二條ノ外尙ホ左ノ手續ニ從

フ

裁判所ハ請求ニ表示シタル事實ヲ調査シ職權ヲ以テ失踪ノ推定又ハ宣言ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ定ムル爲メ證人訊問ヲ命ス可シ

證人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ忌避ノ規則ヲ除ク外民事訴訟法第二編第一章第六節ノ規定ヲ適用ス

第七條 檢事ハ證人訊問ニ立會ヒ決定前ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第八條 失踪ノ推定又ハ宣言ヲ言渡ス決定ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ公示ス可シ

此決定ニ對シテハ請求者又ハ檢事ヨリ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得失踪者ノ定置キタル總理代理人モ亦同シ

第九條 失踪事件ノ請求ニ關スル費用ハ其推定又ハ宣言ヲ言渡シタルトキハ本人ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨シ若シ之ヲ言渡ササルトキハ請求者之ヲ負擔ス但檢事請求ヲ爲シタルトキハ本人ノ負擔トス

第三章 相續ノ限定受諾ニ關スル手續

第十條 限定受諾者ハ適法ノ期間内ニ相續財産拂盡ノ計算ヲ完了シ其計算書ヲ相續地ノ區裁判所ニ差出ス可シ

第十一條 利害關係人ハ自己ノ費用ヲ以テ區裁判所ニ計算書ノ閱覽及ヒ其謄本ノ下付ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 法律上又ハ裁判上相續財産ヲ管理スル者ハ限定受諾者ト同シク計算完了ノ責ニ任ス

第四章 國ニ屬スル相續財産領收ノ手續

第十三條 相續人アヲサル財産アルトキハ相續地ノ地方行政官廳ハ財産所在地ノ區裁判所ニ其引渡ヲ請求ス可シ

第十四條 財産引渡ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ事實ヲ調査シ其請求ヲ公示ス可シ

第十五條 公示ハ左ノ諸件ヲ具備シ請求ヲ受ケタル區裁判所ノ揭示板ニ掲

示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス可シ

第一 被相續人ノ氏名職業住所居所及ヒ死亡ノ年月日

第二 財産引渡ノ請求ノ要領

第十六條 民法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スル者ハ公示ノ日ヨリ六个月内ニ行政官廳ノ請求ニ對シ其請求ヲ受ケタル裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第十七條 前條ノ期間内ニ異議ノ申立アラヌ又ハ其申立ヲ不當ト爲ス裁判確定シタルトキハ裁判所ハ民法財産取得編第三百四十六條ノ規定ニ從ヒテ保存スル供託所ノ金額領收證ヲ請求者タル行政官廳ニ交付ス可シ

第五章 財産ノ封印及ヒ目錄調製ノ手續

第十八條 財産ノ封印ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財産所在地ノ區裁判所判事之ヲ爲ス

封印ニハ官印ヲ用ユ可シ

第十九條 封印ヲ爲スコキ財産カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ區裁判所判事ハ市町村長ニ囑託シテ封印ヲ爲サシムルコトヲ得封印ノ除去及ヒ財産目錄ノ調製ニ付テモ亦同シ

囑託ヲ受ケタル市町村長ニ付テモ下數條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 封印ハ證人二人立會ノ上之ヲ爲スコシ

封印ヲ請求シタル者ハ其封印ニ立會フコトヲ得

第二十一條 封印ヲ爲シタルトキハ直チニ調書ヲ作り立會人之ニ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ區裁判所判事其事由ヲ附記ス可シ

第二十二條 調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スコシ

第一 封印ヲ請求シタル者ノ氏名職業及ヒ住所

第二 封印ノ理由

第三 封印ヲ爲シタル場所及ヒ物

第二十三條 日用品其他封印ヲ附セザル物アルトキハ之ヲ調書ニ略記ス可シ

第二十四條 封印ヲ附シタル物ニ鎖鑰アルトキハ之ヲ閉鎖シテ封印除去ニ至ルマテ區裁判所書記課其鑰ヲ預ル可シ

第二十五條 封印ヲ終リタルトキハ其財産ノ保管人ヲ命スコシ但保管人ハ成年者タルコトヲ要ス

第二十六條 區裁判所判事封印ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ爲スコシ若シ後レタルトキハ其理由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 封印ノ調書ハ判事ト同伴シタル書記之ヲ二通ニ作り其一通ハ區裁判所ノ書記課ニ保存シ他ノ一通ハ封印請求者又ハ保管人ニ交付シ受領證ヲ取置ク可シ

第二十八條 何人ニ限ラス區裁判所判事ヨリ封印ノ立會ヲ求メラレタル者正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムトキハ刑法第百七十九條ニ掲ケタル刑ニ處

ス

第二十九條 封印ノ除去ヲ請求スル權利ヲ有スル者左ノ如シ

第一 封印ヲ請求スル權利ヲ有スル者

第二 財産ノ管理人

第三十條 封印ノ除去ハ豫メ其日時ヲ定メ既ニ知レタル利害關係人及ヒ財産ノ管理人ニ之ヲ通知スヘシ

通知ヲ受ケテ封印除去ノ異議ヲ申立テス且除去ニ立會ハサル者ハ其除去ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三十一條 封印ハ一箇ノ物ニ付キ之ヲ除去シ其目錄ヲ作り了リタル後ニ非サレハ次ノ物ニ付キ之ヲ除去スルコトヲ得ス

第三十二條 封印ノ除去ハ封印ヲ爲ス時ト同シク證人立會ノ上之ヲ爲ス可シ

第三十三條 左ニ記載シタル者ハ封印ノ除去ニ付キ異議ヲ申立ルコトヲ得

第一 利害關係人

第二 財産ノ管理人

第三 檢事

第三十四條 封印ヲ除去シタルトキハ第二十一條ノ規定ニ從ヒ直チニ其調書ヲ作ルヘシ

第三十五條 調書ニハ左ノ諸件ヲ具備ス可シ

第一 封印除去ノ異議アリサリシコト又異議アリタルトキハ其異議申立却下セラレ又ハ之ヲ取下ケタルコト

第二 封印ヲ爲シタルヨリ之ヲ除去スルニ至ルマテ其封印ニ何等ノ變更ヲ來ササリシコト若シ變更ヲ來セシトキハ其事情

第三十六條 封印ヲ爲シ及ヒ之ヲ除去スル費用ハ其財産ノ負擔トス

第三十七條 封印除去ノ異議ハ其封印ヲ爲シタル區裁判所ニ之ヲ申立ツ可シ

異議申立ニハ申立人ノ關係及ヒ申立ノ理由ヲ包含ス可シ

第三十八條 異議ヲ申立テタルトキハ其申立ノ却下セラレ又ハ之ヲ取下ケタル後ニ非ザレハ封印ノ除去ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 封印除去ノ異議ハ其除去ニ書手シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 異議申立ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十一條 財産目錄ハ財産ニ封印アルトキハ其除去ノ際公證人ヲシテ之ヲ作ラシム可シ

第四十二條 財産目錄ハ左ノ各人ヲ適法ニ呼出シ區裁判所判事ノ面前ニ於テ之ヲ作ル可シ

第一 知レタル利害關係人

第二 財産ノ管理人

第三 檢事

第四十三條 目錄ニハ左ノ諸件ヲ具備スヘシ

第一 適法ニ呼出サレタル人

第二 出席シタル者及闕席シタル者

第三 各不動産ノ形狀

第四 動産ノ種類及ヒ數量

第五 證書類

第四十四條 財産目錄ニハ立會ヒタル各人署名捺印ス可シ

第四十五條 目錄ノ調製ニ關スル費用ハ其財産ノ負擔トス



○ 裁判上代位法 明治二十三年十月 法律第九十三號

朕裁判上代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一

日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

裁判上代位法

第一條 民法財産編第三百三十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル訴權ヲ行ハントスル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス 債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セサルトキハ債權者ハ債務者ノ住所地ノ裁判所ニ代位ノ申請ヲ爲スコトヲ得但催告書ノ謄本ヲ差出スコシ

第三條 代位ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者、被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示

第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示

第三 訴訟物ノ表示

第四條 裁判所ハ申請ニ付テ債務者ヲ審訊セスシテ決定ヲ爲スコトヲ得

右申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○辨濟提供規則 明治二十三年十月 勅令第二百十七號

朕辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

辨濟提供規則

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金錢ナルトキハ其種類員數ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定量物ナルトキハ其種類品質數量ヲ記

ス可シ

第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス

第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金三十錢其  
他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

○増價競賣法 明治二十三年十月  
法律第九十二號

朕増價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日  
ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

増價競賣法

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ増價競賣ヲ要  
求スル債權者ハ第三所持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタルヨ

リ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ  
擔保ノ認許ヲ求ム可シ

前項ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲  
グル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ  
提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百  
四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ  
擔保ノ許否ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ

否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求  
ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ参加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期間ニ自  
ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知リタルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手  
續ヲ爲スコトヲ妨ケス



第四條 左ニ掲クル者ヲ增價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一 競賣要求者

第二 債務者

第三 第三所持者

第四 抵當債權者

第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保ヲ十分ナリトスルトキハ競賣手續

ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號

第五號、第七號乃至第十號ニ掲クル諸件ノ外增價競賣ノ要求ニ因リ競賣

ヲ爲ス旨及ヒ最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スルコ

トヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百

六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條、第六百七

十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條、第

六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求

者ヲ競落人ナリト言渡ス可シ

第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トヲ問ハス競落代

價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カル、コト

無シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七

百五條ノ規定ヲ適用ス

第十條 增價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ增價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ

許サス

○民法中財產取得編人事編 明治二十三年十月 法律第九十八號

朕民法中財產取得編人事編ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

（財產取得編人事編略之）

○登記法 明治十九年八月 法律第一號

沿革略記

明治五年正月大藏省ヨリ東京府ニ地券發行地租收入規則ヲ達シ新規並書換地券印稅ヲ定ム○同年二月大藏省第二十五號ヲ以テ地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則ヲ達シ新規並書換ノ證印

稅ヲ定ム○同年同月第五十號ヲ以テ地所永代賣買ヲ許シ人民ニ共有權ヲ附ス○六年一月第十八號布告ヲ以テ地所賣入書入規則ヲ定メ戶長ヲ以テ證文ニ與書證印セシム○同年十二月第三百九十六號布告ヲ以テ代替授與並水火盜難ニヨリ地券書換證印稅ヲ定ム○七年十月第四百四號布告ヲ以テ地所賣受ケ代金受取ノ證文アルモ地券申受ケカレハ買主ニ所有權ナキモノトナシ是レカ罰例ヲ定ム○八年六月第六百六號布告ヲ以テ七年第四百四號布告ヲ改正ス○同年九月第四百四十八號布告ヲ以テ建物書入質規則並建物賣買讓渡規則ヲ定メ書入質並賣渡讓渡證文ニ戶長ヲシテ與書割印セシム○同年十月第五百五十三號布告ヲ以テ家督相續贈遺等ノ地所地券書換手續ヲ定ム○九年五月地租改正事務局甲第一號布達ヲ以テ六年第三百九十六號布告ノ稅額及荒地其他無代價券狀授與書換ノ證印稅ヲ改正ス○十年三月第二十八號布告ヲ以テ船舶賣買書入質手續ヲ定ム○同年九月地租改正事務局甲第二號布達ヲ以テ荒地起返及開墾錄下年季明地其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有主變換セラル地券書換證印稅ヲ定ム○十三年十一月第五十二號布告ヲ以テ八年第六百六號及第五百五十三號布告ヲ廢シ更ニ土地賣買讓渡規則ヲ定ム○十四年五月第三十號布告ヲ以テ從前ノ證印稅則ヲ廢止シ更ニ地券證印稅則ヲ制定ス○十五年十二月第六十號布告ヲ

以テ地所建物船舶買賣讓渡及質入書入ノ戶長公證猶豫ノ時機ヲ示  
ス○十九年八月法律第一號ヲ以テ十年第二十八號布告船舶買賣書  
入質手續十三年第五十二號布告土地買賣讓渡規則十四年第三十號  
布告地券電印稅則其他從前ノ法律規則中牴觸スルモノヲ廢シ登記  
法ヲ定ム是レ現行法ナリ

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ買賣讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物  
ハ其所在地船舶ハ其定賣場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ(二十年法律第一號ヲ以テ改正)  
已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壞シタルトキ  
ハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フヘシ(二十年法律第一號ヲ以テ本項追加)  
農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地  
ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項追加)

二十三法律  
第七十八號  
以テ本法中改  
正加除ニ付刊  
出

二十一年法律  
第六十四號  
以テ治安裁判  
所出張所ヲ設  
キ登記事務ヲ  
取扱ハシムル  
事今ハ正編第  
十三類ニ載ス  
ル

第二條 地所建物船舶ノ買賣讓與質入書入ノ登記ハ「始審裁判所長」之ヲ監  
督ス可シ

第三條 登記事務ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ取扱フモノトス「治安裁判所」遠隔  
ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ「始審裁判所長」ノ監督ヲ受クル  
モノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲シタル地所建物船舶ノ買賣讓與質入書入ハ第三  
者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ買賣讓與質入書入ニ付キ登記ス可キ概目左ノ如シ

- 第一 地所ハ郡區町村名字、番地、地目、反別若クハ坪數、「地券面」ノ價格
- 第二 建物ハ郡區町村名字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、造作ノ有無
- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、

二十二年法律  
第十三號  
以テ地券  
ノ價目ハ土地  
ノ價目ニ對シ  
テノトス以下  
ノ之

汽機及汽關ノ種類端船其他必要ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名番號積石數間數端船其他必要ノ所屬品

第五 登記ノ事由

第六 金額

第七 質入書入ハ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲スト

キハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質

入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

(二十三年法律第七十  
八號ヲ以テ本項改正)

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出

シタル書類ノ受取證ヲ下付スヘシ(二十三年法律第七十  
八號ヲ以テ本項追加)

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ(二十三年  
法律第七

十八號ヲ以  
テ本項追加)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ

收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書又ハ官廳ノ照會書ニ依リ登記簿ニ其記

入ヲ爲スヘシ(二十三年法律第七十八號ヲ以テ命令書  
入ヲ爲スヘシ)下ニ又ハ官廳ノ照會書ノ八字ヲ加フ)

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ(二十三年法律第七十  
八號ヲ以テ第二項ヲ

削リ更ニ本  
項ヲ加フ)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條

ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之

ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス(二十年法律第一  
號ヲ以テ改正)

第十一條 登記ノ謄本又ハ披書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請求

スルコトヲ得(二十三年法律第七十八號ヲ以テ「登記所」ニテ「下出頭」ヲ以テ「四字」ヲ削ル)

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄「始審裁判所」ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第

十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在

ラス(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添へ置ク可シ(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應

ジ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登

記ヲ請フトキハ親屬二名以上又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署

ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ(二十三年法律第七十八號ヲ以テ親屬ノ下ニ二名以上ノ四字ヲ加フ)

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札達書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ

第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フト

キハ其ノ指令ノ本書若クハ達書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ

概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲スコシ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登書濟ノ證ヲ受ク可シ(二十年法律第一號ヲ以テ改正)

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

二十一年勅令第六十六號ヲ以テ登記ノ規定ニ改正ス

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手數料

第二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價	登記料
五圓未滿	五錢
五圓以上 拾圓未滿	拾錢
拾圓以上 貳拾五圓未滿	貳拾五錢
貳拾五圓以上 五拾圓未滿	五拾錢
五拾圓以上 百圓未滿	壹圓

百圓以上	貳圓
貳百圓未滿	貳圓
貳百圓以上	三圓
三百圓未滿	三圓
三百圓以上	四圓
四百圓未滿	四圓
四百圓以上	五圓
五百圓未滿	五圓
五百圓以上	六圓
七百五十圓未滿	六圓
七百五十圓以上	七圓
千圓未滿	七圓
千圓以上	八圓
千五百圓未滿	八圓
千五百圓以上	九圓
貳千圓未滿	九圓
貳千圓以上	拾圓
五千圓未滿	拾圓
五千圓以上	拾貳圓
壹萬圓未滿	拾貳圓
壹萬圓以上	拾貳圓

以上五千圓マテ毎二貳圓ヲ増加ス

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其ノ讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲ケル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨ

リ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第二十五條ニ掲ケル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但

一件ニ付キ金五錢ヨリ下ヌトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ據リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ

(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシ

又建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項改正)

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム(二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

第三十條 左ニ掲クル者ハ手數料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手數料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道

路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ  
第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨリ五拾錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則



第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメシト欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項改正)

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項追加)  
本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金壹錢ヲ納メシム(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項追加)

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項改正)

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ(二十三年法律第七十號ヲ以テ本項追加)

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ(二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

二十三年勅令  
第二百七十七號  
以テ本令申出  
知ニ付再出

○商業及船舶ノ登記ニ關スル手数料明治二十三年七月  
勅令第三百三十三號  
朕商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ

第一 商號後見人、未成年者、婚姻契約及ヒ代務ノ登記公告ハ本店ト

支店トニ拘ハラズ各金三拾錢

其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ

第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ合名會社ニ付テハ

金六圓合資會社株式會社ニ付テハ各金拾圓

其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付金三拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニテハ金拾錢

第四 登記簿ノ謄本ハ用紙壹枚ニ付金拾錢但一行二十字二十行ヲ以

テ壹枚トシ十一行以上ハ壹枚十行以下ハ半枚トス

十九年省令甲  
第五號ノ正編  
第十五頁ニ載

第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ

商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金拾五錢ヲ納ム

ヘシ

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ(二十三年勅令第二  
百七十七號ヲ以テ追加)

○登記法取扱規則二十三年十月  
初法省令第七號

本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルニ付明治十九  
年省令甲第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム

登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲ス可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町

村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村  
毎ニ見出シ付ス可シ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他従前ノ區畫ニ從ヒ分冊ス  
ルコトヲ得

第三條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其用紙ヲ表題  
登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケル所ヲ云フ以下準之 及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分テ仍ホ其表題及ヒ  
 各區ヲ數欄ニ分テモノトス  
 其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百  
 二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ  
 所トス  
 其甲區ハ買賣讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記ス  
 ルノ所トス  
 其乙區ハ質入借入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登  
 記スルノ所トス  
 其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス  
 船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ従前ノ例ニ依ル  
 可シ  
 第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス  
 登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫  
 ノ前項ノ請求ヲ爲ス可シ  
 第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ職  
 氏名ヲ署シ職印ヲ捺シ且每葉ニ契印ス可シ  
 第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所

二十三年省令  
第八號ハ次ニ  
載ス

長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受シ可シ  
 前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存  
 シ已ニ登記シタル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ  
 第二節 登記手續  
 第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印  
 ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受  
 クルモノハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘ  
 シ  
 登記簿ノ原本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ  
 第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差  
 出ス可シ  
 代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差  
 出サシム可シ  
 第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ  
 順序ニ從ヒ之ニ共受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三號書式ニ準シ書  
 類ノ受取證ヲ下付ス可シ  
 第九條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ  
 登記ノ手續ヲ爲ス可シ  
 第十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス

場合ニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ買入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若シハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シテ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ買取與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サハル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ

敷番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ買取與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ買入書入若クハ差押等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ登記事由欄内ニ何々ノ物件ヲ買入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

敷番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ買入書入ト爲ストキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其買入又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ買取與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入買入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ニ移シタル物件ト連帶シテ書入若クハ買入トナリタルモノナル